

## 令和2年10月7日 市長定例記者会見 会見録

### ◆司会

ただ今から市長定例記者会見を開催いたします。本日の話題は1件です。市長、よろしくお願いたします。

### ◆市長

今年も早いものでコロナ禍のことがあったのであつという間の上半期でありましたけども、もう下半期に入ってしまった。静岡市の社会経済活動の活性化、すなわち「くらしのLife」を取り戻すための取り組みを新しい生活様式を徹底しつつ進めています。お手元に告知ツールを3種類お配りしています。今日のタイトル、「こんな今こそお茶でまちに賑わいを」と、広報課につけてもらいましたけれども、私たち、一貫して「コロナがあるからこれもできない、あれもできない」ではなくて、コロナの時こそ将来に向けていろいろ準備をしていくことだと。準備して、いろいろ立ち止まって深く煮詰めて、そして、ジャンプアップする、その時期にしようよ、という発想で取り組んできました。今日はその一つであります。

11月というと大道芸、ワールドカップで静岡のまちは一色になるんですね。それはそれですごく賑やかで、今年も大道芸を期待している方々にとっては残念な秋になるわけですけども、でも、普段の年だったら大道芸があるからかすんでしまうお茶の日は、逆に今年は際立つわけですよ、大道芸がないから。その発想で大道芸のコンテンツも活かしながらお茶というものをプロデュースすれば、これはかえってお茶目立つじゃないかというような発想で取り組んできました。そんなことをたくさん各局が仕掛けております。例えば、都市局が中心に「しずおかおいしいものめぐりサイクルラリー」。観光交流文化局を中心に「静岡市まるっと！周遊半額キャンペーン」、お手元の資料のほうご覧ください。こういう仕掛けを作っています。

そして、今日、皆さんに絶対伝えたいことは、総務局の広報課が頑張ってくれた5市2町で開催する「GOTOスタンプラリー」であります。これ、お手元に第9号が配付されていますので、ぜひ、ご覧いただきたいと思います。これ、ぜひ、記者の皆さんに全国発信してほしいなと思うんです。今月から国では東京発着のGOTOトラベルが使われるようになって、「GOTOでどこ行った、あそこ行った」って、「GOTO」という単語がキーワードになっていますけれども、実は、静岡市はこの「GOTO」というのを、2年前から使っていたんです。国の連携中枢都市圏、総合戦略の中で交流人口を活発化していこうよ、つまり、観光客にとって市境はないわけですね、あるいは静岡市民、意外と牧之原市や島田市って何をしているのか知らないんですね。だから、この5市には、一番「ぴあ」ですよ、イベント情報、「こんなところに、こんないいところがあるよ」「灯台下暗しだよ」ここのところを、もっとせっかく連携中枢都市圏の7自治体になった

わけだから、情報共有化しようよという目的で、2年前から始めたこの新聞の折り込みの冊子のタイトルが「G o T o」なんですね。なので、今回、杉山雅彦さんの写真、非常に子どもたちの笑顔かわいいですけれども、旗振って「私が元祖G o T oです」と言っているのは、その意味なんですよ、これ、ご存じでした？皆さん、意外と知られていないんですね。なかなか、テレビが「G o T o、G o T o」って取り上げてくれるわけではないのでね。

なかなかこの2年間苦勞したんですけれども、頑張りました。この「G o T o」というのは、なぜ「G o T o」かということ、5市2町だからなんですね。5市の5と2町の2、ワンツースリーのツーで「G o T o」。そして、車に造形、デザイン化しまして、この「G o T o」というロゴを。そして、この「G o T o」で、5市2町いろいろ巡ろうよ、回ろうよ、そして、観光交流やろうよ、というような情報発信の冊子なんです。なので、最後の裏ページの下のところにも「G o T o」は、平成30年から発行しています、「G O T Oキャンペーン」とは関係ありませんって、ささやかな広報課の職員の自負でありますので、ぜひ、これで「G o T o」というのは、静岡連携中枢都市圏には「2年前からあったんだよ」ということも発信していただければうれしいなというふうに思います。

このイベントは、10月から国の「G O T Oキャンペーン」に合わせ、静岡市内、さらには中部連携中枢都市圏、島田、焼津、藤枝、牧之原、吉田町、川根本町内の回遊と交流を促進するために、企画したものであります。過ごしやすいこの時期はサイクリングにはもってこいの季節ですので、パルクルやレンタサイクルもぜひ活用していただきたいと思います。食欲の秋と言いますので、地元のおいしいものも楽しみながら各地を巡っていただけますので、多くの皆さんに参加していただくことによって、地域経済の活性化につながることを期待しています。

さて、本題に入りますが、「静岡市といえばお茶」をキーワードに、静岡のまちを元気にしていこうというものです。これも仕掛け作りの、これがあったからこそなんですけれども、パークレット「ハニスク」、たいへん多く取材していただきありがとうございました。これ、規制改革の一環として、道路空間を利用して新たなまちの賑わいを作り出す取り組みの第2弾だったんですけれども、このお茶の振興策でもあります。官民連携していますので、セノバの方ともタイアップしまして、セノバも今月1日から来月1日まで、お茶で静岡を元気にをキャッチフレーズにお茶の祭り、「茶祭」というキャンペーンを始めています。ですから、セノバさんも静岡市も方向性は同じですね。すごく連携ができていな、官民が協力してみんなで静岡市のお茶を11月1日のお茶の日前後をこの時期に盛り上げていこうということになります。今年は、新茶の季節であるゴールデンウィーク期間はステイホームウィーク、「うちにいよう」という期間になってしまいました。そんな自宅での時間、おうち時間を充実させるため、また消費が落ち込んだお茶農家さん、お茶屋さんを応援するために、うちでお茶を飲もうという、「うちお茶キャンペーン」をステイホームウィークで展開しました。あれから半年、全国的に経済回復に向けた取り組みが進み

つつある今、11月1日の静岡市お茶の日を迎える時期に合わせ、うちだけではなく外に行こう、まち中でお茶を楽しんでいただきたいという思いから、まち歩きを楽しみながら静岡市のお茶に親しんでいただける、「まちお茶キャンペーン」を実施します。期間は今月16日から来月15日までです。

このキャンペーンでは観光施設や宿泊施設、そしてタクシーを利用していただいた方へのお茶パックのプレゼント、あるいは飲食店での静岡市のお茶の提供などを実施します。

さらに期間中、静岡駅北口という一等地で、しずチカと喫茶一茶がありますので、あの場所を拠点に、未来の「お茶のまち静岡市」に向けたトライアルを実施していきたいと思えます。具体的には、しずチカ、一茶と法令上は道路に当たるその店の前のスペースを組み合わせ「しずチカ茶店一茶Seasonal」Seasonal、特定の期間ってことですね。期間限定の特別な、しずチカ茶店ショップをオープンいたします。

普段はものを置いたりものを売ったりすることのできない地下道の傍らに、オクシズ産材のベンチを置き、この期間しか飲めない特別なお茶や静岡銘菓、お茶漬け、そして、夜はなんと、もう、あまり難しいことは言わない、公共空間だろうとアルコールを出してもいいよ、静岡割り、お茶割りも楽しむことができる賑わいの場を、この期間中、作り出したいと思えます。今回、初の試みとして、しずチカのスペースに地元のお菓子やおつまみになる缶詰などを購入できる物販コーナーを特設します。また、ランチタイムにはお弁当の出張販売の場をご提供することによって、飲食店の皆さんの応援をさせていただきたいと思えます。

全般的に私アピールしたいのは民間企業みたいでしょう、さっきのこの「GoTo」の表紙の写真なんか、よく反響が返ってくるんですけども、「これ静岡市で行政が作っていたの？すごいセンスいいよね」と。民間企業がやっぱり商品売るために、とにかく必死になっているいろんなセンスを生かしながら冊子を作る、あるいはキャンペーンをする、役所仕事ではないようなキャンペーンを今回も立案してくれたなというふうに、私は胸を張りたいと思っています。

そして、目的は消費活動を下支えしていくということでもあります。

そして、静岡市内の個々のお店、事業所が儲かってもらおうと、少しでも売り上げ伸ばしてもらおう、そこが目的であります。それを、人を誘うそんな仕掛けを行政が作っていくということでもあります。

そして、当日、聖一国師がお生まれになった11月1日のお茶の日には「一茶Seasonal」を中心にハニスクとか市内の各所と連携してまち中が、そこ一点だけではなくて、地下道だけではなくて、まち中全体がお茶を楽しめる、そんなスペシャルイベントを計画しています。大道芸、ワールドカップは中止になりましたが、民間で企画されているまち劇イベントとも連携して盛り上げていきたいと考えています。

改めてお知らせをいたしますが、10月16日にはオープニングセレモニーを実施いたしますので、取材をよろしくお願ひいたします。結びにこのキャンペーンを通じて多くの皆さん

に静岡市のお茶の魅力を再認識していただき、お茶を通じて地域の元気を取り戻したいと思えます。私からは以上です。

◆司会

それではただ今の項目について、各社さんからご質問がありましたらお願いをいたします。ご質問の際は社名とお名前をおっしゃってからお願いをいたします。いかがでしょうか。

◆市長

ぜひ、手を挙げてください。

◆司会

よろしいでしょうか。それでは幹事社質問に移りたいと思います。朝日新聞さん、よろしくお願いします。

◆朝日新聞

今月の幹事社の朝日新聞社です。よろしくお願いします。

◆市長

よろしくお願いします。

◆朝日新聞

幹事社からは2問ほど質問させていただきます。それではお伺いします。まず、①桜ヶ丘病院に関するのですが、桜ヶ丘病院の移転先について静岡市側が提示しました駐車場案に対して、病院側は9月15日に、「適していない、不適である」と回答したというふうに伝えられています。その上で新たな移転先の提示を求めました。市として新たな移転先はどちらにいたしますでしょうか。お答えください。

◆市長

1問、1問でいいですね。まず桜ヶ丘の移転に向けてはハード面、ソフト面の二つの課題を共通認識として持っています。それは移転場所というハード面と医師の確保というソフト面であります。その中で先日JCHOから「当初の候補地に比べ著しく狭隘なため、地域における求められる医療機能を果たすことが困難である、適していない」とした非公式の文書が届きましたが、本市としてはJCHOの意向を確認しながら提示させていただいた土地ですので、このような文書が届いたことを大変、戸惑っています。

この件についてはJCHO側の真意を確認する必要もあり、今後、節目、節目で尾身理事長と直接トップ同士で大局的な見地に立って話を進めていきたいと考えています。静岡市民、何よりも清水区民の皆様方に医療体制の充実という目標に向けて、最良の結果になるように連携して努力してまいりたいと思いますので、よろしく願いいたします。以上です。

◆朝日新聞

非公式な文書、真意を確認するという部分ですが、これは正式な回答ではないということで、改めて会談した上で次の段階に進むということでしょうか。

◆市長

私はそう思っています。

◆朝日新聞

もう会談の予定は立っているのでしょうか。

◆市長

今、調整中です。できるだけ早い時期に理事長とお会いしたいと思っています。

◆朝日新聞

では2問目に移らせていただきます。

これも清水区に関することです。清水庁舎の移転についてですが、来年の予算に関係費用を計上するか見送るか、検討中ならばいつまでに判断するのか、ということをお答えください。

◆市長

庁舎の整備事業、止めたわけですね。来年度の予算措置については、まだ決まっていません。仮に来年度の予算を計上する場合には、例年の取り扱いと同様に当初予算議案を来年の2月の定例会に上程するという事になっておりますので、その時期にお伝えすることができると思います。

◆朝日新聞

政治的な判断という時期で考えた場合に、来年の2月は提出時期だと思いますので、例えば年内に判断できるかできないかって、その辺の心積もりはどういうふうにしていらっしゃるのでしょうか。

◆市長

9月の本会議のご質問に答えた私の思いは、なかなかこの問題難しいなと思います。折しも菅政権が発足をして行政のデジタル化ということが非常に大きな行政課題に、これからなっていくし、いろんな物資両面のメニューが出てくるでしょう。デジタル庁の発足ということも見定めながらこの庁舎の問題、アフターコロナの時代に向けてどんなあり方がふさわしいのかという議論を目下進めておるところであります。

◆朝日新聞

ありがとうございます。

◆司会

それでは、そのほか各社さんからのご質問がありましたらお願いいたします。  
NHKさんどうぞ。

◆NHK

関連して桜ヶ丘病院について伺います。JCHOの文書について非公式とおっしゃいましたが、今の時代にはんこが押してないと駄目だということを、市長おっしゃらないとは思いますが、保健福祉長寿局が受け取った文書を見ますと、文書をどういったものかお伺いしますと、機構の名前が入った結論であるというふうに仄聞しております。技術的に救急車の入り口、スロープが難しいですとか、ナースステーションから見渡せるベッドの数が限られているですとか、横の道路、騒音、振動の問題等々、お話伺う限りは、確かに狭いし無理だよなというのは、私もよく実感できる話だと思ったんですけれども、市長はあの土地まだ可能性があるとお考えなんですか。

◆市長

それをきちっとトップ同士で心合わせをしていきたいというふうに思っております。ご存じのとおり、尾身理事長は今、コロナ対策で大変お忙しい立場であると。その時に4月に新しい院長が着任をされた。その院長おっしゃるに、これからは前院長ではなくて、前院長は、それはしなかったわけですが、「私を窓口にしてくれ」と、「本部とのパイプ役にしてくれ」と、「私が桜ヶ丘病院を任されている」というふうにおっしゃったものですから、「それは助かります」と、「心強いです」と。出身が静岡市です。ということで院長と協力をして、このことについても庁舎を止める前から、「もし、そういうことになったらどうだ」というようなことを、一つひとつ確認して、それで「第2、第3は適地だ」というふうなことをいただきましたので、その時私申し上げました。「ここ、津波想定地域ですよ」「広さはこうですよ」と。そして、本田副市長の知見も活用して。しかし、「総合設計制度を使えば、これだけ14,000㎡ぐらいまでは使えます」

と。「これでどうですか」と言ったら、「これ適地です」と、とにかく早く移転したいんだということが意向でしたので、それを前提に、「じゃあ、庁舎も一旦止めさせてもらおう」と。議会対策をはじめ、皆さんのところに説明をするということが、今回3カ月もしないうちに1枚の文書でこうなったと。到底、私が納得できるものではないということでもあります。

#### ◆NHK

当初、内野院長から前向きな、適地だという発言があったのは私も記憶しておりますけれども、とはいえ技術的検討を踏まえて不適と判断された。そういった一つの結論が出て、他の候補地を探すのもそれはそれで一つの前進だと思うのですが、あえてここで足踏みをされる、アポイントが難しい尾身理事長に会えるまで次に進まないという、あえて停滞の道を選ばれるのは市長、何かこだわりがあるということでしょうか。

#### ◆市長

そうではありません。もうやっぱり相手方と誠心誠意交渉するという姿勢が大事なんだろうと思います。リニアの時もそうでしたけれども、トップ同士で胸襟を開いて何回も何回も会うということで相手の立場も分かってくる。紙一つで重大な決定が変わると。国の機関だからそれに自治体従わなければいけないということではないです。

ですから、私は誠心誠意、特に理事長からは最後にお会いをしたのは去年の秋でありましたけれども、「ハード面、ソフト面、二つの大きな課題あるけど、むしろ市長さん、大事なのはソフト面なんです」と。「医師の確保なんです」と。清水病院のこともありますけれども、桜ヶ丘病院、医師の確保について、特段の協力をお願いしたいということなので、そのことについても誠心誠意、我々は「いろんなことができるよね」ということでやってきたつもりです。そうやって、なんとかそういうふうに、早く体制ができるようにという努力をしてきました、ということでもあります。ですから、これと将来においても別に「第3で絶対やれ」と、ここ以外絶対選択肢がないというつもりは全くありません。全くありません。しかし、やはり交渉というのは一つひとつ、相手の立場も思いやって積み木を積み重ねていく作業であるということをご理解いただきたいと思います。

#### ◆NHK

他の選択肢はないというつもりは全くないとはおっしゃいましたが、今でも狭隘さや、横のバイパスの振動、騒音があってもそこは候補地たり得ると。場合によっては、病院の規模を縮小してでも、この選択肢を捨てないでほしいという意味でしょうか。

#### ◆市長

ん？

◆NHK

病院の規模を大幅に縮小してでも、あそこに建てる選択肢を、もう一度検討してほしいということでしょうか。

◆市長

これも取材の過程の中で、院長がおっしゃったかもしれませんが、最初、過去10年間、桜ヶ丘病院の稼働率は非常に低かったと。199床ベッドはあるけれどもマックス120しか埋まっていなかったと。その内訳も急性期の総合病院というには、かなり厳しい状況だったと、なので、これからもそのぐらいの規模であれば大丈夫だ、というふうにおっしゃったわけです、院長は。

だから、この第3でも最大限の活用ができればハード的には適地だというふうにおっしゃったわけですね。私たちは桜ヶ丘病院だけではなく、清水区の医療全体の充実ということが大事ですので、その総合力でベッド数を確保するということを考えたわけですね。そのパーツなんです。桜ヶ丘病院ってね。だから、視野狭窄にならずに桜ヶ丘病院、一点でそういう議論をせず、大局的にこのことを、ぜひ、取材、報道していただければうれしいなというふうをお願いいたします。以上です。

◆NHK

伺い方が悪くて申し訳ございませんでした。

今、199から100から120床程度でということまで設計をして、でもやっぱり狭すぎるというのが、今のJCHOの結論なわけですけども…

◆市長

そうではないでしょう。どうしてそういうふうに言うんですか。その結論はどこでどういうふうの下されたんですか。

だから、そこのところ報道が先走ると、私たちすごく困るんです。だから、先ほどよく自分を主張されるだけではなくて、私の話も聞いてほしいんです。私、先ほどなんと申し上げましたか、質問に対して。それをちゃんと受け止めてから質問してください。

もう一度申し上げますよ。「このような文書が届いたことに非常に戸惑っています」と。以上です。

◆NHK

病床を100からさらに大幅に下回るような病床にしたり、場合によっては救急をしなくなるという判断であってでも、あの土地はもう一度検討してほしいということでしょうか。そこだけお答えください。



◆市長

先ほど申し上げたとおりです。

◆NHK

そこをお答えいただいてないのでお願いします。

◆市長

そんな、そういうことをおっしゃったのが3カ月前の院長だったということです。それを尊重して私たちはこの3カ月間、いろいろ本当に、本田副市長の知見も生かしているいろんな最大限の配慮をしてきたということです。

◆NHK

場合によっては救急をやめることも選択肢だということで理解してもよろしいですか、今のお答えは…

◆市長

いや、救急は大事ですよ。なんで、そこで突然そんな言葉が出てくるんですか。

◆NHK

救急車が課題になっていますので。どうやって2階まで上げるのか。

◆市長

救急は大事です。それは最初から期待をしています。

◆司会

よろしいでしょうか。

◆NHK

結構です。長くなってしまいますので結構です。

◆司会

それでは各社さんからご質問があればよろしくお願ひいたします。いかがでしょうか。よろしいですか。では静岡新聞さん、お願いします。

◆静岡新聞

静岡新聞です。桜ヶ丘病院に関連してなんですけども、先日の10月1日の県議会の方で、

清水選出の中澤県議の質問に答える形で、県が桜ヶ丘病院を巡って、地域医療連携推進法人制度というものを活用して、同病院の医師確保を含めて地域医療のあり方を検討する方針を示されたんですけれども、これに対して県がこういうのやろうとしているわけですけど、静岡市としてはこの話を承知していたのか、または今後この考えについてどのような検討をするのかをお聞かせください。

◆市長

県市連携はすごく大事であります。県が桜ヶ丘病院の医師不足について、そのような考えを示されたというふうに理解をしております。JCHOにもこれからお話をすることだったので、具体的にはこれからのお話でありますので、市としてもどのように進めていくのか、お話を進めていきたいと思っております。

◆静岡新聞

県の方から、この県議会の答弁より前にこういった話を、打診というか、こういうことを検討しているという話はなかったということでしょうか。

◆市長

原課のほうではあったようです。ただ、私自身やっぱりきちっと責任を持った話をしないと、これは進みませんので、これからだというふうに思っております。

◆静岡新聞

現時点で市長としてはこの考え方については、まだ全然白紙の状態という感じですか。

◆市長

そうですね。ただし、私、現場を預かっている自治体の立場ですから、もう目の前の喫緊の課題、これは本当に複雑な連立方程式を解いていくような課題であります。それをしっかりやってかなきゃいけない、順番を間違えないようにしないといけないということもありつつ、大局的に清水区の医療体制がどうあるべきかということも見定めなければいけません。尾身理事長もきっと桜ヶ丘病院一つにこだわっている方ではないと思っております。今までの経歴の中では、そういう意味では尾身理事長と虚心坦懐にその辺りの話もしていきたいな、投げ掛けていきたいなというふうに思っています。

ですから、10年後、30年後サステイナブルに、もう一度清水区の医療体制がどう充実していくかと、そういうことも併せてこの話を一つ進めていければなというふうに思います。

◆静岡新聞

ありがとうございます。

◆司会

その他、中日新聞さん、お願いします。

◆中日新聞

中日新聞です。桜ヶ丘病院ではなくて、リニア絡みで県道トンネルの件について、お話しを聞かせてください。現状、県道トンネルの事業者については公募を行っているかと思えます。目前まで掘削が迫ってきている中で、残土置き場の確保の現状について、お尋ねさせてください。

◆市長

前回の会見でもこれはお話したとおり、県道トンネルの発生土の処理については協定がございますので、それに基づいて協力して進めていきたいと思っております。もう少し具体的に申し上げますと、発生土の処理地の情報は市からJR東海に提示するというふうにありますので、現在、地元の皆さんとも調整しながら候補の絞り込みを進めている最中であり、今後、トンネルの掘削工事に支障がなくJR東海が選定できるように議論を進めてまいりたいと思っております。したがって、工事には着手していただけるものと考えています。

◆中日新聞

もう少し、各論に参りたいのですが、現状、県道トンネルからは有害な金属であったり、ヒ素などが含まれているかどうかというのは、候補地周辺の地質調査のみで、本当のところは分からないのが現状だと思います。残土置き場の確保に関して、出た場合、出ない場合、どこまで市として、JRと選定を進めるのか、その選定の守備範囲についてお聞かせください。

◆市長

それとても大事な論点だろうというふうに私も認識をしております。県道トンネルの工事予定地周辺で重金属の存在は、現在のところは確認できていませんが、今後どうなるか掘ってみなきゃ分からないところはおっしゃるとおり、あるわけでありませぬ。もし、そういう重金属を含んだような残土が発生をする場合には、法令等に基づいて適切な処理をJR東海に求めていきたいというふうに思っています。

◆中日新聞

ありがとうございます。それに関してなんですが、まだ何が出てくるか、出るかどうかも含めて分かっていない現状であると思っておりますが、岐阜の御嵩町では、現状のJRの封じ込

め策としては、遮水シートを使った封じ込め策が一般的なのですが、御嵩町は流出の懸念からこれを受け入れられないと、その方法での処理は拒否されました。他の自治体でそういう現状がある中、もし仮に同じような課題に直面した場合、既定路線だからというふう  
に受け入れるのか、それともそこから、その方法が適切なのかどうか、市としてもJR側  
と検討すべきなのか、そこの考えをお聞かせください。

◆市長

それはこれからのことでもありますね。やはり私たちは住民の生活を守っていかなくちゃいけないということでもありますので、適宜、今、調整をしているわけですがけれども、そのこと  
と、きちっとどう封じ込めていくかという方法を、両にらみでやっていかなくちゃいけない  
というふうに思っております。

◆中日新聞

ありがとうございます。続いてお願いします。両にらみでやるということと、最初の質問  
に立ち返るんですが、掘削開始の条件として、現状で、市の方が検討を開始している残土  
置き場が出る残土に対して半量ほどだと認識しています。全量をまだ確保していない段階  
で掘削を認めることができるのか、掘削開始において残土置き場の最終的な処分場の確保  
の状況と、掘削開始の条件というのはどういうふうにご考えていますか。

◆市長

このところを、私は実務的に詳しく承知していないんですが、答えられる職員はおりま  
すか。

◆道路計画課

すいません。道路計画課中央新幹線の推進道路担当の尾焼津と申します。よろしくお願  
いします。前段で市長からお話があったように、今、現時点で工事着手していただけるもの  
と考えているものですから、条件等々については、今、設定しておりません。

◆中日新聞

ありがとうございます。これはよく分かりました。市長として、市長にぜひ直接お答え  
いただきたいんですが、全量の処理先を確保できるかどうかというのは、今、不透明な状況  
というのが今の答弁で分かりました。全量の処理先が決まってない場合、土は出続けるん  
だけども最終的に置く場所がないと、そうすれば当然掘れなくなるわけですね。トン  
ネルの開通がままならない状況も万が一あるかもしれません。全量の処理先を確保しない  
段階で掘削を始めるのが適切なのか、地元の期待を裏切ってしまうのではないかという懸  
念もはらみます。そこについてのお考えをお聞かせください。

◆市長

これも先ほどの桜ヶ丘の議論と少し似ているんですけども、やはり、いいですか。全体状況を見定めつつ、どういう役割分担をしていくかというのが大事だと思います。ステークホルダーがたくさんおります。ですので、そのことを踏まえて今後判断をしていきたいと思っております。以上です。

◆中日新聞

ごめんなさい。桜ヶ丘病院については地域医療構想の件で全体を見定めてというふうにおっしゃられたのかなと認識しているんですが、残土置き場に関して全体を見定めるというのは、どういうふうに、私は理解すればよろしいでしょうか。

◆市長

これから県との交渉も始まっていくわけですし、どのぐらいのタイムスパンがかかるのかということも不透明ですね。そういう流れの中で環境保全は大事だというようなことは、私も強く認識をしております。そして、一方でJR東海さん、国策の中で2027年、かなり厳しい状況になっております。しかし、どのような見解を持っているのか、国の方はどう思っているのか、そういう大局、全体の状況について、ウィンーウィンの関係になるにはどうしたらいいのかということ、私は申し上げているわけです。あくまでも私は住民の不安を払拭するというのが一番優先した責任であります。

◆中日新聞

すいません、全体、私の質問の趣旨がうまく伝わらなくて申し訳ないのですが、問題としては、私の問い掛けとしてはシンプルで、「土を掘ります、だいたい35から40万 $m^3$ 出てきます。ただ、現状で確保されているのが多く見積もっても20万 $m^3$ の最終処分場なんですね。となると、15万から20万は余ってしまいます。そうすると、置き場がなければ処理ができない状況になるわけですね。現状で掘削をするのは適切なかどうか、置き場が見つからなければ今の基盤であるあのトンネルを掘り進められないということになりかねません。それについての認識をお伺いしたい。

◆市長

今日、問題提起をいただきましたので、実務的にそのことも含めて議論していきたいと思っておりますし、補足をしていただければ補足をしてもらいたいと思っております。

◆道路計画課

すいません、度々。道路計画課の尾焼津と申しますけれども、先ほど前段で市長が申し上げたように、トンネル掘削工事に支障がなく、JRさんの方が工事を進められるように、

今、現状お話ししているもの以外にも順次、候補地というのを選定していきたいと考えておるものですから、工事が止まることのないような対応というふうに心掛けていきます。以上です。

◆中日新聞

ありがとうございます。

◆司会

その他いかがでしょうか。先に第一テレビさん。

◆静岡第一テレビ

第一テレビです。よろしくお願ひいたします。桜ヶ丘病院に関してなんですけれども、院長との意思疎通があった上での不適という非公式な回答に戸惑っている中で理事長と今後お会いするということなんですが、不適とされた以上は、次の話し合いの際に、他の候補地というのでも提示されるご予定はあるのでしょうか、お聞かせください。

◆市長

それはもちろんあります。その前の段階だということですね。

◆静岡第一テレビ

もう次の、今、前の段階…

◆市長

まだ第3、第2が本当に不適なのかどうかということについて、理事長とのお話しの結論が出ていませんので、それを先に。もし、私たちはこれも全体の清水の都心づくりの中で便利な場所ということで協定を結びましたので、やっぱり、第3、第2で作ってもらえればありがたいというのが私の正直な気持ちです。

◆静岡第一テレビ

第2、第3駐車場について、改めてもう一度、理事長の意思確認をされると思うんですけども、次の話し合いの際にそれにプラスして他の候補地の提示というものを準備はされてはいない？

◆市長

そこまではありません。

◆静岡第一テレビ

承知しました。ありがとうございます。

◆司会

その他いかがでしょうか。NHKさん、お願いします。

◆NHK

すいません、あと二つ伺わせてください。

はんこ廃止の議論について、今、福岡市とか袋井市とか、動きの早い自治体が全国的に注目されていますけれども、静岡市も先日の議会答弁で、洗い出しを始めるということですが、この申請書のはんこ廃止について、市長、どういったお気持ちがあるか、はんこの重要性というのいろいろ考えることがあるか、所感をお聞かせいただけますか。

◆市長

もちろん行政デジタル化の一環の中で、このところはスピード感を持って議論を進めていきたいというふうに思っています。

◆NHK

廃止は積極的に進めたいというお立場か、それともこれまでやってきた慣例の重要性も重んじたいという立場か…

◆市長

ただし、これも細かい配慮が必要だと思うんです。本当に廃止しなければいけない慣習というのがどのぐらいのボリュームあるのか、かなり多いと思いますけれども、あると。しかし、はんこ文化って日本に何千年も中国から来て、伝わっているものですので、そのところ、電子化という流れの中できちっとした議論、これもサステイナブルな議論をしていかなきゃいけないと思いますね。ですので、今、世間はもうとにかく、はんこ廃止、廃止というふうに前のめりになっていますけれども、そのところは、やはり、きちっと必要なもの、不要なものという議論をしてスピード感を持って進めてまいりたいというふうに思っています。

◆NHK

ありがとうございます。もう一つ伺います。

先日9月23日の本会議の答弁で風間議員の質問でした。議員の発言として、「田辺市長が市議会議員や県議会議員に対して、人事権や予算編成をちらつかせて、選挙や予算要望について圧力とも取れる発言をされたことはないでしょうか」という問い掛けがありまし

た。それに対して、特に市長や部局からお答えなかったですけども、何か、「なかったでしょうか」という問いに対して、あったのかなかったのか、「あれはこういうニュアンスだったんだよ」というような、何かご説明されたいことがあるか、いかがでしょうか。

◆市長

市議会議員？

◆NHK

本会議の中で、「田辺市長は市議会議員や県議会議員に対して人事権や予算編成をちらつかせて選挙や予算要望について圧力とも取れる発言をされたことはないでしょうか」という、そういった問い掛けが風間議員からありました。

◆市長

全く心当たりありません。

◆NHK

全く、では風間議員の発言が誤っていると…

◆市長

取り方なんでしょうけどね。

◆NHK

議会の議事録の訂正や削除などはお求めになるのでしょうか。

◆市長

どのことです？

◆NHK

議会の議員の質問の方の文言…

◆市長

それは求めません。それはやっぱりおっしゃることは尊重したいと思います。

◆NHK

去年の選挙の前に、田辺さんの応援をしてくれなさそうな議員さんに対して、「あなたの息子さんは市職員でしたよね」という発言をしたということで、お話しが広まっているん



ですけれども、これについて事実関係はどうなのでしょう。

◆市長

いやいや、それは誤解があるやりとりだろうと思います。

◆NHK

誤解というのは、ではその発言はニュアンスが違うということでしょうか。

◆市長

非常に優秀な職員です。本当にとっても活躍をしているし、見識も高い職員です。

◆NHK

その議員さんに言った発言というのは、なんのために息子さんの話を持ち出されたんでしょうか。

◆市長

それよりも私は県議会議員の時に、先輩の議員でしたので大変お世話になりました。家族ぐるみのお付き合いでした。そんな話をしたわけであって、記者が疑われているような圧力をかけたとか、そんなことでは一切ありません。ただ、それも周りの人と受け取るほうの気持ちということになるので、それは私自身気を付けたいなというふうに常日頃、あなたとのやりとりの中でも、私はあなたとのやりとりの中で反省をしておりますので、気を付けているつもりであります。

◆NHK

わかりました。ありがとうございます。

◆司会

その他いかがでしょうか。よろしいでしょうか。それでは以上で本日の定例記者会見を終了させていただきます。次回は10月の21日水曜日、午前11時からとなります。よろしく願いいたします。本日はありがとうございました。